

全体会で出された主なご意見と区役所（本市）の対応・考え方（令和7年度第1回）

令和7年度第1回全体会では、「How to 多文化共生のまちづくり～外国人住民とともによりよい地域をつくる～」というテーマに絞り、各部会に分かれ意見交換を行っていただきました。各部会から出された主なご意見を紹介します。

番号	意見	区役所の対応・考え方		担当課
		当日の回答	補足等	
こども青少年部会	・イベント参加の経験や子どもの通う学校の状況を踏まえて、かなり多文化が進んでいるというを実感している。 ・外国人住民が増えてきたことを受けて地域活動の担い手不足を解消するために「多文化共生」を求めるのは違うと思う。 ・日本人のコミュニティのベースを築いた上で、イベントなど興味のある外国人住民の方がいれば参加してもらい、チラシの翻訳など協力してもらおうといった自然な流れで多文化共生の推進をしていくことが本来の形なのではないか。	ご意見ありがとうございます。 発表の中にもありましたが「楽しいところからつながりを持っていく」とうのはまさにそのとおりだと考えています。 他区の事例ですが、これまで日本人のこどもしか参加していなかったこども神輿の募集チラシを多言語で作成したことで、中国人とナイジェリア人のこどもが初めて参加してくれました。 また、あるイベントに参加してくださった外国人家族が、「地域住民と仲良くなりたいので、こういうイベントに引き続き参加したい」と言っていただき、その後も定期的にイベントに参加していただき、冬に開催したもちつき大会の際には、母国語でチラシを作成し、友人に配布するなど参加する側から提供する側になったという事例があります。 言葉が通じず外国人同士がコミュニティをつくり、地域住民と「分断」されるということがないように楽しいところから関わりを持ってお互い歩み寄っていくというのが非常に有効だと再認識いたしました。 ・区役所からの補足ですが、港区民まつりでは「多文化カフェ」を開催しています。これは、区民センターで開催している市岡日本語教室に参加されている外国人の方にお声がけし、区民まつりに来られた日本人の方と「やさしい日本語」で交流していただいています。 ・また、併せてご紹介ですが、今年から港晴地域で教育委員会が「港晴日本語ゆうえんち」を開設しています。こちらは外国につながる若者等をターゲットに、日本語学習を通して新たな「外国人と日本人の交流の場」となっています。	同左	市民局ダイバーシティ推進室多文化共生担当 協働まちづくり推進課（教育・人権啓発）
安心安全・まちづくり部会	・外国人住民との関わりとして、近くに引っ越してこられた際に挨拶に来てくれた、マンションのオーナーが外国人に代わった、職場に外国人の方が増えた、日本語学校の生徒が増えたなどこのグループだけでも色々なケースを共有することができて驚いた。 ・私たちのグループは安心安全・まちづくり部会なので、防災学習会や避難訓練から関わりをもちやすいという意見が出た。 ・八幡屋地域の事例として以前外国人住民の方とごみ出しマナーや防災関係について、話し合いの場をもったことがある。このように一歩ずつはじめていくことが大事だと思う。			
福祉部会	・こども食堂、こども・子育てプラザの利用者、病院の患者の中など「外国人住民が増えてきている」という共通の意見が出た。 ・外国人住民がコミュニティを作ると関わりを持ちにくくなるので、だからこそ識字教室や夏祭り、区民センター内でのイベントの参加など接点を持ってお互いを理解することが大事だと思う。 ・また外国人住民にとって地域コミュニティのキーパーソンとつながりを持つことは大きなテーマなのではないか。 ・港区は（外国人住民に対して）ウェルカムであるという姿勢をPRすることが大事だと思う。例えば区民まつりでそういったPRのブースを設けるのも1つの方法だと思う。			